

平成28年度 学校関係者評価書

学校名	和歌山市立西和佐小学校
作成日	平成29年2月14日

1 教育目標

強いからだと明るい心を持つ子どもの育成

2 学校の自己評価についてのご意見

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標に対する意見	◇学校の取組を地域に伝えていくことが、保護者や地域が学校に対する理解を深めることに繋がり開かれた学校のベースとなるだろう。	◇ゆたかな心の中には学校や地域を思う教育も必要ではなからうか。学校や地域にはこんなすばらしい歴史あり人が住んでいるということを知り、地域を思う心を育てることが大事である。	◇子どもたちの学力を高めていくには学校だけでなく、保護者と連携していくことも大切である。家庭での学習が少ないということが、子どもたちや保護者のアンケートにあり、学校外(自宅)での学習のしかたについても考えていくことが大事である。

取組の状況に対する意見	◆学校開放月間で、より多くの保護者・地域の方々が来校されるよう取組を進めて行って欲しい。 ◆開かれた学校になっていくには、保護者間のつながりも大切である。育友会活動などを通して、横のつながりを増やしていくことが学校と保護者・地域が繋がっていくことになる。	◆「にしわさ活動」で高学年と低学年がふれあうのは豊かな人間関係づくりに繋がると思われる。取り組む意図を確認しつつ成果と課題を出し、充実・発展させてほしい。 ◆子どもたちが落ち着き、真面目に学校生活を送っているのは、道徳や人権教育、読書活動などの成果であらう。また、教師の取り組む姿勢の現れと思う。	◆学力向上への先生方の頑張りがわかる。 ◆育友会や保護者が学校の先生方と協力して子どもたちの学力や生活習慣に気をつけていかなければならない。
検証結果に対する意見	○学校から地域にも学校の取り組みなどをどうわかりやすく発信していくか検討されたい。 ○学校と地域の人とのつながり点では、子どもたちが地域の人に元気よく挨拶できるということも大事であるので取組を進めて欲しい。	○子どもたちが落ち着いた学校生活を送れているのは先生方の日頃の努力のたまものである。今後も子供たちの未来のために宜しく願いたい。	○学校での学習とともに家庭学習が大切である。子どもも保護者も家庭学習が少ないことを認めている。家庭で自分の好きな学習(自学ノート)をすることも含めて発達段階にあった家庭学習の内容等を検討する必要がある。
改善方法に向けての意見	◎本年度はじめて取り組んだ「ふれあい集会」(3年生)については、地域の方々の結びつきや、「感謝」の心を育てる大切な取組と思う。来年度も実施して欲しい。 ◎学校から地域への回覧版などに学校からの「西和佐だより」(地域版)を入れると地域の方にもよくわかるようになると思う。子どもや孫が小学校にいないと、学校のことがわかりにくい。	◎教職員の評価で、教職員自身が課題と認めているところについて、改善策に努めてほしい。 子どもたちが困っていることを聞いてよい方向につなげていくなど、課題の中から持続可能な取組を考えたい。	◎学校での特別活動や各教科領域において、子供たちが自主的に活動でき、また自主的に活動できる力をつけることが学力に繋がり学習が身に付けていける集団に成長していくと思う。今後も、計画的に取組を進めて欲しい。

3 其他のご意見

<ul style="list-style-type: none"> ◆読書活動の充実に向けた図書整備や読書貯金など、学校は頑張ってくれている。 ◆トイレの改善が計画的に進むようにして欲しい。 ◆学校玄関前、里道についての学校・園の安全対策を進めてほしい。
